

「顔の見える」関係を築いていくこと

ボランティアスタッフ 菊池礼乃

2011年末、8か月ぶりに勤務先のあるタイから一時帰国し、当会の年賀状書きにスタッフとして参加しました。ご支援者の皆様のお名前を一人ひとり確認しながら、宛先、そしてメッセージを書きましたが、長年に渡ってご支援くださっている方も多く、知っているお名前を見かけるたびに、「〇〇さんは、お元気かな？△△さんには、あのイベントで講演していただいたな。」とお世話になった皆さんの顔を思い浮かべていました。



お名前を一通ずつ確認しています

私は、昨年の3月末から NGO 職員としてタイ、ミャンマーの国境で働き始めましたが、働き始めて間もなく、それまで気がつかなかったあることをひしひしと感じるようになりました。それは、団体や支援事業を応援して下さると同時に、新米 NGO 職員である私自身を応援して下さる方々がいらっしゃるということです。家族や友人、以前の勤務先の同僚、そしてこれまでのボランティア活動で知り合った方が、私への応援も兼ねて、所属先の団体に支援して下さることがありました。自分が学生の頃



難民キャンプの人々と一緒に

や一般企業に勤めていた時も周りの方々に随分支えられていたと思いますが、目に見える形で応援していただく機会はこれまであまりなかったので、感謝すると共にとても身が引き締まる思いをしています。

これまで、NGO のスタッフは事業目標達成のために陰ながら支える黒子のような役割

を果たすものだと思っていましたが、今は考え方が少しずつ変わり、事業内容や活動成果だけでなく、自分が事業に携わる中でどのようなことを考えているのか、どのような経験をしているのかをもっと伝えて、「顔の見える」関係を築いていくことが大切ではないかと思うようになりました。もちろん自分で責任を取れる範囲で情報を発信することは忘れてはいけないと思いますが、そうする過程の中で、私自身をもっと知って頂き、人と人が繋がる形で団体とも信頼関係を結ぶことができるのではないかと考えています。

日韓アジア基金の活動でも、カンボジアでの教育支援事業、日韓交流に関心を持ってご支援くださる方が沢山いらっしゃいますが、中には当会のスタッフを通して団体を知り、「こ

の人が頑張っているなら、活動を応援しよう！」ということで、ご支援くださっている方々もいらっしゃいます。これは、各々のスタッフが「顔の見える」付き合いの中で築き上げてきた信頼によるものだと思います。そして、このような信頼は、間違いなく現在の日韓アジア基金の団体としての活動を支えています。

年賀状書きを終えて、お世話になっている皆さんの顔を思い浮かべながら、改めて日韓アジア基金はご支援者の皆様に支えられていると感じると同時に、私個人としても、日韓アジア基金を通して出会った様々な方とのご縁を大切にして、もっと「顔の見える」関係を築いていけるように努力していきたいと思いました。